

土岐市総合教育会議 議事録

1 開催日時・場所

令和3年11月19日（金）午後1時30分から
土岐市役所3階 大会議室A B

2 次第

1. 開会
2. 市長あいさつ
3. 教育長あいさつ
4. 協議・調整事項
ICT活用の実践状況について
5. その他
6. 閉会

3 資料

ICT導入の経緯と現状の課題

4 出席者

土岐市長 加藤 淳司

教育委員会 教育長 山田 恭正
教育委員 加藤 悟
教育委員 大野 良子
教育委員 酒井 真吾
教育委員 大橋 廣

（教育委員会事務局）

事務局長 松原 裕一

教育次長兼教育総務課長

兼教育研究所長兼学びのICT支援室長 塚本 修

生涯学習課長 堀尾 宜弘

文化スポーツ課長 吉本 順一

給食センター所長 林 孝子

図書館長 西部 浩司

教育総務課主幹兼課長補佐

兼学びのICT支援室次長 加藤 貴史

教育総務課管理主事兼学びのICT支援室 早瀬 浩孝

教育研究所主任兼学びのICT支援室 加藤 望

子育て支援課長 伊藤 智治

(市長事務部局)

市長公室長

林 洋昭

政策推進課長

熊崎 直美

政策推進課課長補佐兼政策企画係長

中垣 博之

政策推進課主査

牧島 彰彦

5 傍聴者 4 名

6 議事進行の記録

次ページ以降に記載

◆議事進行の記録

《開会 午後１時３０分》

○司会（熊崎政策推進課長）

皆様こんにちは。

定刻になりましたので、ただいまより令和３年度土岐市総合教育会議を開催させていただきます。教育委員の皆様におかれましては、大変お忙しいところ、ご出席いただき誠にありがとうございます。

本日の司会進行を務めさせていただきます、土岐市政策推進課長の熊崎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

この会議は、土岐市総合教育会議運営要綱に従い進めさせていただきます。会議の傍聴につきましては、要綱の規定に従い、土岐市教育委員会会議規則に基づいて実施いたします。

総合教育会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、平成２７年４月１日に各地方公共団体に設置されることとなりました。土岐市においても、平成２７年６月２９日に設置し、以降毎年度総合教育会議を開催しています。

総合教育会議は、首長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育課題やあるべき姿を共有し、より一層民意を反映した教育行政を推進するため、執行機関同士の協議と調整をする場でございます。「教育の条件整備など、重点的に講ずべき施策」や「児童、生徒等の生命及び身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置」についての協議や事務の調整を行うこととなっています。

本日は次第に記載のとおり、「ＩＣＴ活用の実践状況について」をテーマに意見交換をいただくこととなっております。

それでは、さっそく次第に従いまして進めさせていただきます。

はじめに、市長よりごあいさつ申し上げます。

○市長

改めまして、皆様こんにちは。

今日は大変お忙しい中、土岐市総合教育会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。会議の趣旨につきましては、司会の政策推進課長が説明したとおり、市長事務部局と教育委員会が連携して、土岐市子どもたちを健全に育てていきたい、そのような願いから開催するものでございます。

先般、教育委員さんにもご足労いただいた、西陵地区での研究発表会がありました。私も初めてではありますが、見学をさせていただきました。この中で感心したことが２つありました。下石小学校の１年生から６年生までの授業をずっと見る中で、特に高学年の児童になりますが、児童が児童を教えているという場面が多くみられました。

私は、大野委員とは同級生であり、同じ学校に通ったので当時の状況をよく知ってみえるとは思いますが、児童が児童を教えるなんていう場面は、昔はまずなかったと記憶しています。これはすごいことだなと思いました。我々の時代であれば、「そんなことも分からないか」みたいな教え方になっていたところでも、教える側も教えられる側もその様なことはなく、非常に優しく教え

るし、受け手側の教えられる側も非常に素直に聞くという、素晴らしい光景を見ることができました。

また、下石小学校については授業の後に学校図書館の案内をしていただきました。学校図書館は、週2日程度、図書支援員がついていただいて整備をしてくれているのですが、非常によく整備をされておりました。読んでいただきたい本が棚の上に並んでおり、結構歯抜けになっていました。子どもたちが借りてるんだなということがわかったのですが、こういった機会を作ってあげることが非常に大事だと思います。

本日はICTが議題ということですが、そもそもICTを活用するきっかけとなったのは、国連のOECDの調査の中で、日本の子どもたちの読解力が低いという結果を受けてのことだと認識しています。ただ、ICTを活用すると読解力が高まるかどうかということには、私は少し疑問を持つところではあります。

そもそも「読書力」について、読書に親しむ機会を与えるほうが、読解力を高めることには寄与するのではないかと個人的には思うのです。国立教育政策研究所の分析によると、長文の読解力や自らの考えを主張する文章力について、日本は少し問題があると言っています。読解力の基本は読書力です。安易なコンテンツを読むのではなく、少し難解な長文にチャレンジする読書が良いということが書いてありまして、まさにICTというのは、少しその逆をいくような、安易な結果をすぐに引き出せるというツールのような気がしています。

この場には土岐市の職員も大勢出席しています。職員が全員そうだとは言いませんが、課題を出すとすぐに答えが返ってきます。多分すぐ答えを選び出せるようなネタがタブレットの中にあるんだと思います。今日のテーマでそのようなことを言ってしまうと、身も蓋もない話になってしまいますが、少しじっくりと考えるという姿勢も必要であると思います。

見学させていただいた授業の中には、タブレットをうまく活用していたという事例も多く見受けられたと思っております。今後とも徐々にスキルを上げていただいて、子どもたちの学力向上に繋がれば良いと思っております。

引き続き教育委員の皆様にはお世話になりますが、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○司会（熊崎政策推進課長）

ありがとうございます。

それでは、続きまして山田教育長からごあいさつをいただきます。

○山田教育長

それでは教育委員会を代表して、一言あいさつさせていただきます。

今日は、令和3年度総合教育会議を市長事務局にて企画開催していただき、どうもありがとうございます。昨年度もICTをテーマとして、様々な論議をし、市長にも多くのご意見をいただき、現在に至っているところでございます。大変お世話になり、おかげさまでハード面の設備ならびにアプリを含めたソフトの導入等々についてかなり充実してまいりました。本日は教育委員会事務局からも、導入の経緯を報告させていただくと思いますが、学校も前向きに取り組んでくれている状況を確認していただけると大変ありがたいと思います。

教育委員会、私の思いとしても、学校には色々なお話を伝えさせていただいています。「教育とき」

という機関誌を2ヶ月に1回、学校の先生方に向けて発行しているのですが、その中で今年度、また来年度に向かって、ICTの取り扱いや考え方についてお願いしている部分を抜粋したものがございますので紹介します。

まず、今年は全力で走りながら触れて欲しいと先生方に頼みました。とにかくどんどんやってみてくださいとお願いしました。2番目は微速で走りながら、ゆっくりいろいろ試してください。3番目は少しスピードを緩めてもいいので、使い慣れて欲しい。4番目は、ゆっくり歩きながらいいので、道具としてどのような価値があるか考えて欲しい。そして究極的には、時々止まってみて、振り返りながら、この道具はやっぱり力を付けているんだなと効果を確かめてほしいとお願いをしました。この5つを来年度に向かって順繰り順繰りらせん状に進めて欲しい、ということをし繰り返し学校の先生方にはお願いをしているところです。

その中で、様々な問題も出てきていますが、今どのように進んでいるかというところを説明させていただき、市長にもご意見をいただきながら、また教育現場に情報発信をしていきたいと思えます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○司会（熊崎政策推進課長）

ありがとうございます。

それでは、次第4「協議・調整事項」に入りたいと思います。

テーマは「ICT活用の実践状況について」でございます。

昨年度開催されました総合教育会議では、「土岐市のICT教育について」をテーマに様々なご意見をいただきました。GIGAスクール構想の下、土岐市におけるICT教育も始まったばかりということで、走りながら、歩きながら進めていくものであるという方針のすり合わせをさせていただいたところでございます。また、前回の会議で課題となりました、どのような教材を、どのように活用して、どのような授業を展開していくのか、ということについては、土岐市教育委員会と市内の各学校が常に情報交換を行いながら、取り組みを推進いただいているところかと存じます。

まずは、意見交換に入ります前に、前回の総合教育会議で出た意見や課題について、経過報告という形で、教育委員会事務局から簡単にご説明をお願いしたいいたします。

○教育委員会事務局（早瀬教育総務課管理主事）

教育委員会事務局の早瀬でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【資料P1参照】

まず、ICT導入の経緯について説明いたします。

令和2年度中にiPadの導入が完了しました。

令和3年度の4月はデジタル教科書が導入されました。小学校5・6年生は英語、中学校は英語と数学がそれぞれ導入されました。また、オンラインアプリのTeamsを導入いたしました。

6月には学習支援アプリのロイロノートを導入。そして、個々の端末にフィルタリングを行いました。ここから本格的に授業での活用をスタートしました。

夏休みには、小学校5年生以上がiPadを家庭に持ち帰り、家庭のWi-Fiに接続し、オン

ライン登校日などを実施いたしました。

9月は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、臨時休校となった場合に備えて、オンライン授業の試行をいたしました。実際に臨時休校となった学校は、オンラインによる学習保障を行っています。

10月以降には、プロジェクターならびに大型モニターを順次導入し、授業でのさらなる活用を進めているところです。

【資料P2参照】

続いて、i p a dの活用事例を動画で紹介いたします。

授業での活用とオンラインでの様々な活用事例について紹介します。

○大型モニターにて「i p a dの学校での様々な活用について」を紹介。

「授業での活用」と「オンラインでの活用」を紹介。

「オンラインでの活用」については「オンライン授業」と「学校外とのオンライン」の様子を視聴。

○授業での活用

体育や音楽の授業のほか、デジタル教科書を使用した数学の授業の様子を視聴。また、「ロイロノート」という学習支援アプリを活用した授業の様子も視聴。

○オンラインでの活用

・オンライン授業

「T e a m s」というアプリを活用して、臨時休校になった学級の授業の様子を視聴。

・学校外とのオンライン

濃南中学校で実施した中学生サミットの様子を視聴。

「T e a m s」を活用した中学生と小学生の委員会活動の交流を実施。

一流スポーツ選手との交流事業である「夢の教室」をオンラインにて開催。

※なお、この映像は著作権の関係により、転載が制限されています。HP上での公開ができないことをご承知おきください。

最後に学びのICT支援室の取り組みです。

主に、会議の開催や研修会、訪問による支援を行っています。会議は、市内代表者の集まりの企画委員会、各学校代表の集まりの推進委員連絡会を開催し、各学校で推進できる体制を作っています。

また、各種研修会を実施し、新しい取り組みについての支援を行っています。さらに、直接訪問を行い、研修や支援を実施しています。

○司会（熊崎政策推進課長）

ありがとうございます。

現在の活用の状況について、学校の授業の中での活用や家庭と学校をつなぐ形での活用、地域や学校外での活用という観点でご説明をいただきました。また、学びのICT支援室の取り組みということで、学校での体制や研修についてもご説明いただきました。

GIGAスクール構想を推進していくために一人につきタブレット1台というのはスタンダードな環境ではございますが、いかに活用の幅を広げ今までの教育と共存させていくか、ということが重要な課題となってきました。土岐市教育委員会では市内の各学校から課題となっている事案について聞き取りを行い、教育委員会にて研修会を開催し、教育委員の皆様と課題の共有を実施されたと伺っています。

それでは、活用を推進していく中で浮かび上がってきた課題について、教育委員会事務局からご説明いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○教育委員会事務局（加藤教育研究所主任）

教育委員会事務局の加藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【資料P 3 参照】

今年度活用を進めてきた、ICTの主な現状の課題を3点説明いたします。

【資料P 4 参照】

1つ目は、学校間、教員間での使用頻度の格差、スキルの格差についてです。

【資料P 5 参照】

こちらは学校ごとの、先生一人当たりの「ロイロノート」アクセス数を示したものです。6月を青色で示しており、学校ごとの差が大変大きかったですが、どの学校も9月には大きく利用が増えております。これは夏休み中の研修や、新型コロナウイルス感染症による学習保障として、オンラインの準備を急速に進めたことによります。これにより、スキルアップした教員がたくさん見られました。しかし、現状としては、まだ学校間や教員ごとの差がありますので、その差を埋められるよう支援していきたいと考えております。

【資料P 6 参照】

続いて情報モラルについてです。タブレット端末を学習に有効活用する土台としては、子どもたち自身が学習に前向きに活用しようとする意識を持つことが大切だと考えます。その意識を育む情報モラル教育が今後重要だと考えています。子どもたちに対する意識の調査をしましたので、その結果をお示しいたします。

【資料P 7・8 参照】

まず、「学習の中でタブレットを使うのは、勉強の役に立つと思いますか」という質問です。これは全国学力学習状況調査の質問と同じ内容です。こちらは小学校6年生の意識です。最上段が全

国の平均となっています。5月は、そちらと比較し、「役に立つ」と思う児童が少なかったですが、11月に調査をしたところ、「役に立つ」と答えた割合が上昇しています。中学校3年生では「役に立つ」という回答は、全国と比較しても高く、かつ11月は5月よりも上昇しています。一方、「役に立たない」と回答する割合も若干上昇しております。

【資料P9・10参照】

次に、「タブレットを使う授業が楽しい」という質問に対しては資料のような回答となっております。「当てはまる」が青、オレンジ色が「どちらかという当てはまる」となっております。タブレットを使う授業では、「自分から進んで取り組める」と実感している子どもが多いようです。

【資料P11参照】

タブレットを使うとき、「学校の約束を守って使っている」に対する回答は資料のとおりです。

【資料P12参照】

続いて、自由記述によるアンケート結果の主な回答をまとめました。

「端末を家庭に持ち帰って使いたい」という回答については、現在持ち帰り推進校による検証を始めているところです。

授業のまとめや発表時の活用など考えを整理し、アウトプットする学習に有効であることを子どもたち自身が感じています。一方で、目が疲れるなどの健康面を心配する声がありました。また、授業中にタブレットを勉強以外に利用している子の姿が気になる、という声もありました。特に活用が多い学校ほどこの意見が多かったです。

【資料P13・14参照】

これまでの結果をまとめると、子どもは楽しく、自分から進んで、約束を守って使えていると考えています。一方で、どの質問にも「当てはまらない」という回答も一定数見受けられました。子どもたちは、現段階では、端末の活用に向き意識を持って取り組んでいると言えます。しかし、活用の機会が増え、学習への有効活用が進む一方で、活用の慣れによって、ルールや約束に対する意識の低下が心配されます。そのためにも情報モラル教育の充実を図ることが、今後の課題となっております。

【資料P15・16参照】

3点目はICTの有効活用についてです。冒頭の教育長のあいさつにもありましたように今年度は、機器の整備に伴い、使うことに慣れることを第一に取り組んできました。来年度以降、より有効な活用を考える必要があります。現状では、様々な形の授業での活用が増えました。これからは、子どもに確かな力を付けるために有効かどうかのポイントとなります。そこで、授業や家庭での利用について、その有効性を検証していく必要があると考えます。

また、タブレット活用は、これまでの教室の中だけに留まらず、学校外、他の地域、外部人材との繋がりなどで、より創造的な活用が期待出来ます。今後そのような事例を探っていき、ICT活用の有効性を一般化するお手伝いをしていきたいと考えております。

○司会（熊崎政策推進課長）

ありがとうございます。

土岐市のICTの実践状況と、そこから浮かび上がってきた課題について、説明をいただきましたが、そのあたりを踏まえただうえで、土岐市のICTの有効活用について皆様からぜひご意見をいただきたいと思っております。土岐市の目指すべき姿を共有し、実現に向けた施策について意見交換など協議をしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○大橋教育委員

ICT活用を取り入れる段階から、研修会を実施したり、会議で話し合ったり、自分でも研究したりと様々なことをやってきましたが、こんなに早く、見事に学校が取り入れたことにびっくりしました。私は教育委員5年目で、教育長と一緒に学校を何回も訪問して授業を見てきました。iPadを活用した授業を見せてもらおうと、今年から本当に授業風景そのものがガラッと変わっています。ここまで一気に変わるものであろうかと、とても驚いています。楽しく活用できているとか、市長も少し言っていた、お互いに教え合っている光景であるとか、ひょっとすると、私たちの想像よりも子どもの取り入れる能力というのはかなり早いのではないかと思います。学校訪問の最中には、中学生が先生に教えているような現場も見受けられました。そのような光景を見ると、とても順応するのが早いという印象を受けました。

実は私は、活用を取り入れる段階ですごく偉そうなことを話していて、土岐市には東濃で一番になってほしい、一年後には岐阜県一番のICT教育推進市になるぐらい頑張ってもらいたいと言っていました。教員のストレスや大変な事情もあるだろうが、それでも支援を手厚く、活用についての研修会を実施してほしいと言っていました。実は内心半信半疑であり、実際に授業に取り入れられるのか不安でした。しかし、全く心配の必要なく、素晴らしい順応している姿を見ることができました。

ただ一方で、ICTが絶対的なものになってしまうのではないかとという心配もあります。今日の朝、プロ野球選手の大谷翔平がMVPを獲得しました。彼が高校1年の時に作成した成功のチャートには読書が入っていました。同じ本を何度も読むことで意識的に取り入れており、そういったことも絶対に必要であると感じました。実は、学校訪問の際に必ず図書館を見せてもらいます。今年頑張って整備していただいて、大変充実しているように思います。ICT活用の観点で、授業であれだけきちんと使えるようになってくると、iPadが絶対的なものになってしまうのではないかと、逆に心配です。iPadで調べれば何でも出てくる、何でもできるのだという考え方は、学習の面には良いかもしれないが、精神面、メンタル面にはどのような影響が出てくるのでしょうか。活用できているからこそ、次の段階を考えるとそろそろ来たのではないのでしょうか。

○加藤教育委員

学校の現場を訪問させていただいて感じることもあるんですが、ICTというのは、2つの面があると思っています。

子どもたちが実際にICTを活用出来るようになるという面が1つ。もう1つが、ICTを活用することによって、現在の授業の内容が良くなるということです。しかし、授業の内容という面

については、まだデータ不足であり、今後検証しないといけないことであるとは思いますが、もう1つの活用という面では、おそらく相当にスキルは上がっているのではないのでしょうか。一方で、これから先に期待されること、社会が子どもたちに期待するスキルは変わってくると思います。少し前までは英語は求められるスキルでしたが、今は一般的なものとなりつつあります。これからの社会に期待される人間は、大谷選手のようなスペシャリストやスーパーエースの様な存在であり、そのような人間を育てる教育が望まれているのではないのでしょうか。ICTというのは、メリットとして、様々なレベルの人たちに対し、それぞれに合った課題を与えることができ、それぞれが興味のあることを集中して取り組むことができるため、スーパーエースを作るような形で活用できるのではないのでしょうか。そのようなソフトやアプリの活用をぜひ望みたいと思っています。

○大野教育委員

市内の学校を10校程度回ってまいりましたが、ほとんどの児童生徒さんが活用出来ていました。小学校1年生のプログラミング授業がありましたが、私は小学校1年生にもなれないなとすごく思いました。

やはり、ICTというのは道具であり、ツールです。社会に出たときに、その子その子に合った使い方が出来るという学びが重要なのではないのでしょうか。子どもたちはとても高いレベルで活用できています。本当に先生方がよく努力されたなと感心いたしました。

漢字の書き方であれば黒板でも可能であるし、現場で実際に見たほうが良いものもあります。そのあたりの使い分けをこれから進めていただけると良いと思います。

先ほど、市長が言われましたけれども、私たちは「そんなこともできないか」と言いながら、でもこれが一つのコミュニケーションでした。当時、泉中学校にはバズ学習というものがありまして、そこでみんなでワイワイ言いながらやっていました。当時のその光景が今ではオンラインとなっている。その中で、自分の意見や考えを言えない子でも、ICTを活用したら言えるよ、という一つの手段として使っていければ良いのかなと思います。

また、昨年度から読書についてよく話に挙がりますが、私もこの4月から少し本を読み出しました。市長は、少し難しいものを読むと良いよと言われましたが、私は最初は簡単なものからと思い、小学校5年生ぐらいのものから始めまして、ずっと今まで読み続けています。やはり続けることがどんなに大事な事かということを感じました。ICTでどうしても進んでいかないといけない、というものでもなくて、しかし、これは嫌だなと思われないような授業で、ツールとして使っていただけるとありがたいなと思いました。

○酒井教育委員

私は、ICTを中心で使わないといけないということについては、疑問を持っていましたし、どちらかというと反対派でした。

一つのツールとしての選択肢として、子どもが頭の中に携えていられれば良いのではないのでしょうか。野球の話ですが、昔であればメモや自分で書いたノートをカバンから出していたところが、今ではiPadが情報を得る一つのツールとなっています。一つの選択肢として子どもが選択の幅を広げていけば良いかなと思います。

将来的に仕事に当てはめた時、パソコンやＩＴ機器を使った仕事が、この先１００％になるという事はやはり想定しにくく、そういう分野に長けていなくても、素晴らしい仕事出来る人も、変わらず存在し続けると思います。どうしてもＩＣＴを中心にしないといけない、という教え方になってしまうと、子どもにとって使えないと格好悪いのではないかと、という自己肯定感にも影響してくる可能性があります。使えるという肯定感があって、それ以上の難しいことは専門的な話として学んでいくステージが上がっていくだけのことだと思います。

自分の経験に当てはめた時に、高校時代それなりにパソコンを前に授業を受けた、触れたという自信があったので、社会に出てもパソコンに触れること自体には抵抗がありませんでした。今はその発展形であると思うが、子どもがツールの一つとして考えるぐらいであれば、親しみを感じて使っていけるのかなと思います。

自分の会社は、デジタル世代とアナログ世代が混在した中で仕事を行っていますが、デジタルがアナログに勝てるものは何もなく、デジタルでルールを作っても、アナログに壊されてしまう現状があります。裏返せばアナログが一番強い。ですので、アナログとデジタルの融合というか、子どもたちが上手にＩＣＴ活用で学んだことと、実際に本を手にとって読むようなアナログなこととの調和を自分で取れる子になっていくことが大事なのではないかと思っています。

私は、スケジュールを手帳に記入するアナログ派ですが、その部分も大事にしながら、子どもの選択肢が広がっていくと良いと感じています。

○市長

やはり実状的に言うとツールという感覚です。私も酒井委員と同様に手帳派ですが、記入しようとしても、字がわからない。漢字をネットで調べて、見て、書くという非常にアナログな人間です。本を読んでいて、カタカナの単語で分からないものが出てくるとネットで調べて意味を把握します。まさに、昔の漢和辞典、英和辞典、国語辞典の代わりを担っているツールです。

しかし、そこにも問題があって、表面的に分かれれば理解したことになってしまいます。知識が浅いことが気になります。そのあたりの懸念があり、読解力という話をしました。読解力を付けるには、読解するためのデータ、情報の引き出し方を習得する必要があり、その部分を疎かにすると、読解力にはなかなか繋がってこないと思っています。小学校１年生からずっと始めていき、中学校を卒業する頃には、読解力が身に付くという形であれば、理想的なことだと思います。

また、先ほど大野委員が言われたように、ＩＣＴを使うことによって、バズ学習の中などのオープンな環境で言い合っていた部分が少し和らぐような効果もやはりあるのではないかと気づくことが出来ました。

ＩＣＴ活用によってどのような効果が出てくるのか、ということについては、実はまだ誰にも分かっていないのではないのでしょうか。その中で、慣れて、走りながら考えていくうちに、少し方向性が見えてくることがあるのではないのかなという気がします。

その中でも、私は、ＩＣＴが中心で、それがなければ駄目という考え方については少し違うのではないかと考えています。あくまでも、何かをしていく上での補完的な役割であり、昔と比べてはるかに便利になった道具という認識です。

○山田教育長

皆様の意見を聞いて、改めて様々な視点でICT活用について見ていただいているなと思いました。私も同じような意見ではありますが、iPadは子どもが使っているのですが、実際は先生が使わせているのです。先生によっては使わせたくない人もいて、そのような授業もやはり存在します。

その中で、私がポイントにして見ている部分は、先生がどのように活用しているのかということです。この活用は良いという事例もいくつか出てきています。

iPadが無い時代の机間巡視、机間指導はとても難しかったです。子どもが考えている限られた時間の中で、先生がメモを持って、児童の机の間を見て回り、質問したり、チェックしたり、子どもと対話したりするのですが、とてもテクニックが必要でした。熟練したスキルを身に付けることはとても難しかったのですが、今は、「ロイロノート」を活用すると、一瞬で子どもの足跡を見ることが出来ます。先生の中には、ロイロノートを活用して、この子とこの子とこの子の意見を意図的に順番に発表させて、論議させれば、きっと子どもが気づくだろう、という授業の組み立てを行っていた人もいました。

私は、ICTを活用することで、先生の授業スキルそのものが革命的に改善できると思っています。子どもの活用というよりも、子どもに力を付けてもらうために、どのように先生が駆使するかという視点で捉えていかないといけないと思っています。

学校現場を見てみると、私は子どもが自分たちで勝手に使っているという場面はあまり見ていません。やはり、先生がこのように使ってやりなさいと指示をしています。そういったことを踏まえると、今は、先生の授業改善にICTをどう活用していくのかという視点でのスタートなのかなと思っています。

この先もっと活用されていくと、加藤委員がおっしゃったように、今度は子どもが自分たちの興味に合った活用を見出す世界に入っていくのではないかと期待しています。

現状では、今の活用について、視点を少し変えながら、絞りながら見ていかないといけないのかなと思っています。実際に見事に授業改善、授業改革に活用している先生はいるのです。逆に、わざわざiPadを使わなくてもいいのではないかと、という使い方をしている授業もあります。わざとらしい使い方は子どもにも伝わって、つまらなさそうに使っています。本当に授業に有効に活用出来ているな、と思うような活用については、子どもも前のめりに参加してきます。このような視点で見えていくと、ICT活用に対する現場の考え方は変わってきます。

最終的な課題として、これは私の主観ですが、先生の授業スキルはICT活用で上がっていくと思いますが、どうしても上がりきれない原因として、根本的な個人の力量があります。子どもに力を付けるということがどういうことなのかわからないと限界が出てくると思います。優れた力量を持つ先生は、ICT活用によってもっと授業が良くなるという思いで学校を見ています。

○大橋教育委員

先ほど、加藤教育研究所主任からの話の中で、児童生徒の意識については確かに良くなっているという報告でしたが、先生の意識については調査結果がありませんでした。先生にとっても、iPadが急に与えられて、ここまで活用を進めてきた中でどう考えているのかは気になります。

教育長が言われたように、すぐに取り入れて、あれだけ楽しく児童と一緒に i p a d を使っている先生がいる一方で、無理をしている先生もいるように思います。1 年使ってみた後に、先生の意識調査を行うと、次の展開に進めるのではないのでしょうか。事務局はどう思われますか。

○事務局（塚本教育次長兼教育総務課長兼教育研究所長兼学びの I C T 支援室長）

やはり先生によっては、厳しいと言っている方もいます。一方で、一生懸命頑張って活用できるようになり喜びを感じている先生もいます。

○大橋教育委員

やはり少し差があるのが実情ですね。

もう一つお聞きします。最近、学校訪問の際によく耳にするのは、土岐市は学力が低いのではないかと、ということです。今の学校の児童生徒はみんな良い子で、学校も落ち着いていて、先生も授業しやすい環境で、とても良い雰囲気です。しかしその中で、学力が全体的に見ると伸びていないのではないかと意見も出ました。本日の議題とは逸れるかもしれませんが、何か上げる方法はないものだろうかという学校訪問に行きながら感じているところです。

○大野教育委員

私も先日学校で授業をさせていただきました。パワーポイントを作成してプロジェクターを繋げて授業を行いました。セッティングは学校の先生にやってもらいました。ツール、道具はどんどん変わってきて当たり前ですし、大事なことはそれに対応する対応力ではないのでしょうか。パワーポイントで資料が作成出来ようが出来まいが、授業を進めることは出来ます。変な自信ではないですけど、どうしても無理してこのツールを使わなければいけないということはないと思います。私は先生にとって重りになっていることに本当にご苦労さまと思います。無理しない程度に進めていただき、会議や訪問、地域との話し合いや感想とかそういったものを画面いっぱい映せるようにしてほしいです。また、オンライン授業を活用して、休みの先生であったり、休みの子どもであったり上手に引き込むという「仲間」という意味で活用する、それだけでも十分 I C T の活用が出来ているのではないかと思います。

○大橋教育委員

先ほどの映像の中にも出てきていましたが、机の上に i p a d、教科書、筆記のスペースを取ろうとすると机が狭い。大きな机を準備していただきたいです。

また、妻木小学校の支援学級の子どもが i p a d に両手でどんどん入力している光景を見ました。使い慣れてくると使いこなせるようになってくるものだと思います、すごく利用価値は高いと思います。

もう一つ、最近とても思うのは、日本人は英語をもっと徹底的に勉強しないといけない。どうしても日本人は語学が駄目だと言われていると思いますが、土岐市が優秀な教育を学校で出来たらというのが、自分の中でのこれからの課題であると思っています。

○市長

先ほど大橋委員がおっしゃった学力の問題について伺います。土岐市の学力が低いというのは、おしなべてということでしょうか。

○大橋教育委員

そうです。学力調査は文部科学省が行っています。今年は土岐市でも小学校6年生と中学校3年生が実施し、全国学力レベルとの比較ができるようになっていきます。世界との比較も出来る中で、土岐市の学力については低いということが現場でもよく言われています。

○市長

何年か前に、教育委員会から、学力を上げたい、学校の中のいじめをなくしたい、子どものメンタル面のカバーをしたい、英語力を上げたいというテーマで予算要求を受けたことがあります。これは素晴らしい取り組みであると思いました。そのような柱をもって、教育委員会から提示をいただいたので、非常にうれしかったです。ですので、学力の問題も含めて、少し掘り下げていただけるといいのかなと思います。ではどうすれば学力が上がるのかといったテーマも良いと思います。

また、先ほど大野委員が言ってみえたパワーポイントについても、論理的な組み立てを行う際には役に立ちます。このページでこれを述べて、次のページでここと繋げてというように、論理的な思考を養うには良いものです。

最初の教育長のあいさつでもあったように、モニターに要点を映し出すのは非常に良い手であるなと思いました。話をしているとわからなくなることがあります。要点をまとめたものを作ること自体が、論理性を高める可能性があるのかなと思います。それが一つの学力ということなのかもしれないと感じました。

○司会（熊崎政策推進課長）

ありがとうございます。皆様から色々なご意見をいただきました。そろそろ時間となっておりますので、意見交換はここまでとさせていただきます。

ICTについて、一つのツール、道具としての利用価値は非常に高いけれども、あくまでも一つの選択肢として、どうこれから活用の幅を広げていくのかということや、子どもが自分に合った課題をどのように出して、活用していけるようになるのかというようなところでの議論が進められていたかと思います。また、絶対的なものではない、というご意見もいただきました。ICTを活用しながら、自分の肯定感を高めていくことや、なかなか手を挙げて発言は出来ないが、何か自分の意見を伝えるツールとしても活用できるのではないかなというようなご意見もいただいています。

机の話も出てまいりましたが、そのような意見も含め、いただいたご意見につきましては、市長事務局局側で、今後教育委員会などの協力も仰ぐ形で調整を進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

本日の会議を経て、土岐市のICTの有効活用については、おおむね皆様のお考えの方向性が同じであることを確認できたと思っています。

今後も、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育課題やあるべき姿を皆様と議論し、教育行政を進めてまいりたいと思いますので、ぜひよろしくお願い申し上げます。

続きまして、次第5「その他」についてですが、何かございますか。

特に無いようであれば、事務局から連絡をいたします。

○事務局（中垣政策推進課課長補佐兼政策企画係長）

政策推進課の中垣です。本日はありがとうございました。

次回の総合教育会議について、ご案内させていただきます。次回につきましては、来年度になってからの開催を予定しております。ただし、重点的に講ずべき施策や、緊急性のある問題が発生し、市長、教育長をはじめ教育委員会が意思疎通を必要と感じた時には、随時開催をさせていただきたいと思います。その際は、またご連絡をさせていただきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

○司会（熊崎政策推進課長）

それでは、これをもちまして、本日の会議は閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。

《閉会午後2時40分》